

特集① 東海豪雨から10年

●東海豪雨とは

平成12年9月11日から12日にかけて、愛知県を中心に東海地方の広範囲にわたって大きな被害をもたらした豪雨災害です。



気象の概況

当時、日本付近に停滞していた秋雨前線に、台風14号からの暖かく湿った空気が大量に流れ込み、前線の活動が著しく活発となりました。9月11日昼過ぎから三重県で激しい雨が降り始め、夕方から夜遅くにかけては、愛知県内各地で記録的な雨が降りました。発達した雨雲は三重県南部から愛知県西部にかけて、愛知県

被害の状況

東海豪雨は愛知県内全体に被害をもたらしましたが、9月11日の夜のはじめ頃から9月12日の朝にかけて、避難勧告又は避難指示が23市町村に出され名古屋を始めて9市町から自衛隊の災害派遣が要請されました。県内の河川は軒並み水防警報が出され、その中で県管理河川では、新川、新地蔵川、広田川、籠川、石ヶ瀬川、皆瀬川、正戸川、井堰川が破堤し、広範囲で浸水被害が発生しま

した。道路も冠水し、多くの道路が通行不能となりました。特に三河山間部を中心に、のり面、路肩の崩落等の大きな被害が発生しました。また、三河北部地域や尾張北部地域を中心に土砂災害も多発しました。農林水産業及び商業活動も大きな被害を受け、商店街では床上浸水の被害を受けた店舗が多数あり、営業再開までにかかりの日数を費やしました。また、製造業においても多くの工場が冠水して生産設備が使用不能となったほか、物流等が滞り、直接浸水被害を受けなかった企業においても一時生産を中止するなど、生産活動に大きく影響しました。ゴミも大量に発生し、浸水した畳や家具などの災害廃棄物は、約81,400トンにもなり、人家の周辺や、道路にまであふれ、復旧の妨げとなりました。

医療施設は、名古屋を始めて、23市町にわたり109施設が浸水被害を受け、特に被害の大きかった西枇杷島町(現 清須市)ではしばらくの間、医療機関の多くで診療が行えなくなり、地域の診療機能が影響を受けました。

●全国で多発する豪雨災害

東海豪雨以後も、平成16年7月新潟・福島豪雨、平成16年7月福井豪雨、平成18年7月豪雨、平成20年8月末豪雨、平成21年7月中国・九州北部豪雨という気象庁が「豪雨」と命名したものが、それ以外にも台風や短時間の間に集中的に降る局地的な大雨が、全国各地で発生しています。

新聞やテレビ等の報道により、記憶に新しいところでは、平成20年7月末、兵庫県神戸市で、局地的な集中豪雨により都賀川が増水し、川の遊歩道で遊んでいた子どもと大人計4名が川に流されて死亡しました。平成20年8月には、東京都豊島区で局地的な集中豪雨により、下水道が急に増水し、下水道工事の作業員5名が流されて死亡するという事故も発生しています。平成21年7月の中国・九州北部豪雨では土砂災害が発生し、土石流が特別養護老人ホームへ流れ込むなど、山口県防府市だけで死者19名を出しました。平成21年8月の台風9号は、兵庫県佐用町で豪雨をもたらした、河川の氾濫や堤防の決壊、住居の全壊や床上浸水の被害ばかりでなく、死者・行方不明者20名という災害を引き起こしています。

愛知県においても、平成20年8月末豪雨では、岡崎市を中心に大きな被害をもたらしました。県内各地で1時間あたりの降水量が100ミリを超え、一宮市では120ミリを、岡崎市では146.5ミリと愛知県の観測史上最大の降水量を記録し、岡崎市全域に避難勧告が出され、自衛隊に対し岡崎市、幸田町への災害派遣要請が行われました。岡崎市では伊賀川流域で、洪水により死者2名を出しました。

このように、東海豪雨以後も全国各地で毎年のように豪雨災害が発生し、尊い命が失われています。

●東海豪雨以後の気象予報の変化

防災気象情報も、この10年間で改善されています。

集中豪雨を的確に予想することが困難とはいえ、東海豪雨以後の気象庁が発表する防災気象情報は、気象観測機器や解析技術の発達等により確実に進歩しています。台風進路予測の精度が上がると、進路予報は2回縮小されました。愛知県では、警報・注意報の発表区分も4区分から8区分に細分化し、さらに今年5月からは、市町村単位で発表されるなど、よりピンポイントで防災気象情報が出されるようになっていきます。

また、携帯電話やパソコンの普及で、平成14年からはインターネットによる気象情報が提供されています。これにより、降水ナウキャストなどでは1時間先までの10分間ごとの降水予測がわかるなど、東海豪雨当時

に比べて防災気象情報をよりリアルタイムに知ることができるようになっています。情報をうまく活用すれば、大雨で危険となるような場所を避けるなど、前もって備えることができます。



気象予報の改善

年	月	項目
13	3	降水短時間予報の予報時間を3時間から6時間先まで延長
	6	台風48時間強度予報開始
14	5	都道府県と共同して行う指定河川洪水予報の運用開始
	8	インターネットによる気象情報の提供開始
	8	気象庁ホームページによる気象情報の提供開始
15	6	台風72時間強度予報開始等台風情報を拡充
	6	降水ナウキャストの提供開始
16	6	台風進路予報の縮小
	6	愛知県の二次細分区域を4区分から8区分に変更
17	3	24時間以内に台風となると予想した熱帯低気圧の情報の提供開始
	6	インターネットによる防災気象情報の市町村等への提供開始
18	5	洪水予報の発表形式の改善
	5	3時間刻みの予報など新しい台風情報の発表を開始
19	4	愛知県において土砂災害警戒情報の発表開始
	8	アメダス観測所における最大瞬間風速の提供開始
20	3	竜巻注意情報の発表開始
	3	台風進路予報の縮小
21	5	大雨及び洪水警報・注意報の指標に土壌雨量指数、流域雨量指数の導入
	4	従来の72時間予報に加え5日先までの台風進路予報の発表を開始
22	4	警報・注意報を市町村単位で発表
	5	竜巻発生確度ナウキャスト及び雷ナウキャストの提供開始

(気象庁：気象庁ガイドブック、報道発表資料参照)

愛知県では、地震防災に関する施策を総合的・計画的に推進するため、「第2次あいち地震対策アクションプラン」を策定し、地震

家具等の転倒防止は家庭や職場でできる効果の高い取組みであるため、あいち防災協働社会推進協議会では、本年度から新たに推進テ

